

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報 [号外] 2009年4月27日 発行 日本鉄道労働組合連合会 (JR連合) 【No.7】

JR総連は革マル派の重要な資金源！

前号で紹介した通り、「綾瀬アジト」押収資料による分析資料には、「(革マル派の)財政は、中核派や革労協狭間派等の他派と比べると、かなり安定していると思われるが、その要因は、産別同盟員から、同盟費とカンパが定期的に入ること、JR総連等の労働組合や大学の掌握自治会等からの流入金があること、また、ゲリラ等による支出がないこと等によると思われる」と記載されている。

その「大学の掌握自治会」に関して、西岡研介氏が著書「マンガローブ」(講談社)には、「1963年の結党以来、革マル派が最も浸透した大学」である早稲田大学で、1994年に総連に就任した奥島孝康氏が本格的に革マル派追放に乗り出し、彼らの徹底した脅迫、嫌がらせ、吊し上げ、盗聴などの不法行為に屈することなく、資金源の遮断に成功した経過について、奥島氏のインタビューを含めて詳述されている。同書には、公安当局の情報として「革マル派が早稲田から吸い上げていた資金は年間2億円以上」と記載されている。

JR東労組元中執の本間氏が革マル派カンパの実態を赤裸々に証言！

上記から察するに、早稲田大学からのルートを断たれた革マル派にとってJR総連はきわめて重要な資金源ということだろう。そして今度は、JR総連内の革マル派構成員から信じられないほどの多額のカンパが集められてきた実態が浮かび上がってきた！既出の元JR東労組中央執行委員の本間氏は、JR総連らが原告の「週刊現代裁判」の証拠として提出した陳述書で、JR内の革マル派構成員のカンパ実態について次のように述べている。

革マル派は、JR東労組に属する労働者から、毎月カンパを集めていました。教職員ら他産別組織では、給料に対するカンパの割合がキッチリ決まっていたのですが、国鉄戦線(JR戦線)では、「人やその時に応じて」と割と緩やかでした。

JR戦線の場合、最低でも1人当たり、月々3000円はカンパしろということでした。私が書記長を務めていた横浜地本の場合は、「L読」(革マル派の機関紙「解放」の読者レベル)といわれるメンバーは月に3000円、Aメンバーでは、上位の者は月に25000円、下位の者は月に5000円カンパしていました。私自身はAメンバーでしたので、月に25000円カンパしていました。

また、ボーナス時にもカンパを集めていましたので、横浜地本だけでも月々のカンパは約40~50万円、ボーナス時で200~300万円にのぼりました。

「解放」は年間購読でしたので、年に約1万7000円を年払いし、これ以外に、革マル派の機関誌である「共産主義者」(年4冊発行)は毎号約1200円でしたから、年にすると約4800円で、これも年払いでした。

横浜地本(組合員4,000人弱)内の革マル派の数はわからないが、1地本でも普通月(30~40万円)、ボーナス月(200~300万円)を合わせて、カンパ総額は、年間700~1,000万円と計算できる。さらに「解放」等の購読料で1人年間2万円以上を支払っているらしい。革マル派へのカンパ総額は、JR総連で数億円に上ることになる。「さつき企画」「鉄道ファミリー」など、JR総連の関連団体からの資金流出を危惧する組合員がいても当然だ。

早稲田に続き、JRからの革マル派資金源を断ち切ることは社会要請だ！